

令和2年度 自己評価実践報告書

学校名 福島県立川俣高等学校

I 自己評価の概要

1 『学校経営・運営ビジョン』について

『かわまたの学び』のもと、高校3年間の学びを通して生きる力を育み、一人ひとりの進路希望実現を学校全体で支援することを目標に掲げた。これを基に、各部、各学年、各科で具体策を検討し、校務運営委員会と職員会議での検討、協議を経て「学校経営・運営ビジョン」が策定された。

2 校内組織体制について

学校評価については校務運営委員会を中心に、校長のリーダーシップのもと、各部、各学年、各科との連携を図りながら、組織的な体制が取られた。

3 自己評価年間計画について

時期	生徒・保護者・地域	学 校	学校評議員
4月 ～ 7月	○各教科での生徒に対する授業年間計画の説明 ○PTA総会（書面表決）で学校経営・運営ビジョンを配付 ○学校経営・運営ビジョンのWebへの掲載	○校長による今年度の目標等の提示 ○校内組織づくり ○学校経営・運営ビジョンの策定 ○各部、各学年、各科での努力目標の検討 ○学校評議員会 学校経営・運営ビジョンに関する説明	○学校評議員の委嘱 ○学校評議員会 ・学校経営・運営ビジョンの説明 ・今年度の重点取組方針 ・生徒指導の説明 ・進路状況の説明 ・いじめ防止の取組の説明 ・不祥事根絶のための行動計画の説明
8月 ～ 12月	○学校へ行こう週間における保護者、地域住民による学校行事、授業見学 ○学校経営・運営ビジョンに関するアンケートへの回答	○学校評議員会 ○学校へ行こう週間など 学校行事の実施、授業実践	○学校評議員会 ・公開授業 ・かえで祭（スポーツ大会）による学校公開
1月 ～ 3月	○生徒の各教科や各委員会活動等での年度末反省 ○各教科や各委員会活動等での次年度の目標設定	○各部・各科での努力目標の年度末反省による成果と改善点の検討 ○学校経営・運営ビジョンに関するアンケート集計結果による成果と課題の検討及び結果のWeb掲載 ○自己評価実践報告書による学校経営・運営ビジョンの達成に関する反省 ○学校評議員会 アンケート集計結果等による説明 ○自己評価実践報告書及び評価書の県教委への報告	○学校評議員会 ・学校経営運営ビジョン実現に向けた年度末反省 ・努力目標に関する自己評価説明 ・アンケート集計結果説明 ・学校からの年度末反省を受けた評価書の提出 ・教職員不祥事根絶のための行動計画検証 ○次年度評議員について説明

II 評価結果の概要

1 年度末評価（反省）の実施方法等について

（別紙令和2年度 努力目標年度末反省参照）

校長の指針のもとに作成された「学校経営・運営ビジョン」を受けて、年度初めに各部・各学年・各教科等で検討会を実施し立てられた努力目標について、年度末に各担当箇所で行って反省を行い評価する。その際、生徒や保護者会からの意見や、PTA役員会等での意見交換、川俣町で行われた川俣高校活性化協議会や川俣ものづくりエイトでの交流会など、年間を通して多くの場面での情報を総合的に判断して、年度末評価を行っている。

評価方法は、段階評価と記述評価の併用である。なお、段階評価については、A・B・Cの3段階で評価し、評価基準は次のとおりである。

[A：ほぼ達成した B：だいたい達成した C：あまり達成できなかった]

2 アンケート及び回答数

（別紙学校経営・運営ビジョンに関するアンケート及び集計結果参照）

評価	年度末評価のためのアンケート		
	対象数(人)	回答数(人)	割合(%)
教職員	26	26	100
生徒	86	86	100
保護者	86	84	97.7

- ・保護者回答数については、昨年比8.3%増であった。
- ・評価項目については、前年度と比較分析するために変更は行っていない。

3 評価基準について

評価	A	B	C	D
評価基準	そう思う	やや思う	あまり思わない	まったく思わない

- ・生徒、保護者ともに回答しやすいように、評価基準を設定した。

4 年度末評価のまとめ

(1) 年度末評価実施の目的、意図

学校の教育活動全般に対して、教員・生徒・保護者の視点を交えて、アンケート等を活用して評価を行うことは、今年度の達成状況を把握することに繋がる。

また、問題点や課題を明確にすることは、次年度の各部・各学年・各教科等の目標策定や「学校経営・運営ビジョン」策定の際、有効に役立ち、今後の学校運営の改善に生かすことができる。

(2) 年度末評価結果の分析、及び結果概況

学校経営・運営ビジョンをもとに設定した、各部・各学年・各教科の年度末反省をみると、目標は概ね達成できている。また、学校経営・運営ビジョンに対するアンケート集計結果をみても、「そう思う」「やや思う」が9割越える項目が多い。これは、教職員の学校運営へ目標設定を高く持ち、教育活動に取り組んだ成果と言える。

(3) 重点努力事項に対する達成状況等

①「確かな学力を育みます」

基礎学力の定着と学力の向上を図ることを目標に、分割授業やT・Tを継続的に実施し、少人数授業を通して個に応じたきめ細かな指導を行った。また、年度当初臨時休業が続き、オンライン授業や課題による家庭学習を実施し、学習の遅れに対する対応はできたが、その後、通常登校に戻った後は、昨年度より4%（83.7%）下降した結果となった。3学年、保護者、教職員で昨年度より「C、D」評価が増えている。ただし、2学年は、13.8%の改善が見られた。

②「進路実現を支援します」

キャリア教育の充実、就職先との連携の強化、大学進学への支援に取り組んだ。今年度は、就職試験が1ヶ月遅れてスタートしたこともあり、例年と違った対応になった。しかし、進路ガイダンスの実施や企業訪問、企業見学などによって、就職内定100%達成することができた。また、課外授業や個別指導を、進路指導部や学年担当者が主体となって組織的に行った結果、進学者含め3年生全員が進路決定することができた。

今年度実施予定であった、インターンシップはコロナ禍の影響もあり、次年度に持ち越すこととなった。

③「豊かな心を育みます」

集団に適応する生活態度を身に付けさせるために、定期的な登校指導、頭髪指導、服装指導を行い、基本的な生活習慣の確立に取り組んだ。また、健康と安全教育の徹底するために、教育相談の充実（スクールカウンセラーとの連携）やスマホ安全教育などに取り組んだ。その結果、問題行動の予防に繋げることができたが、スマートフォンの使用に関する指導やSNSのトラブルに関する指導を行う事案があった。担任の面談や学校生活アンケートを活用し再発防止に努めたい。

④「地域との連携を図ります」

ホームページによる学校行事の紹介を、当日に情報発信するように心掛けた。（12月～2月の1日平均約1400アクセス）また、川俣町広報誌に毎月情報提供を行い、町民の方に川俣高校の取組を紹介した。更に、川俣町との連携事業「川俣ものづくりエイト」に機械科の職員と生徒が参加し、フライホイールカーの設計、製作を教員が担当し、生徒が講師として、小学生に組み立てを教える取組を行った。

(4) 分析に基づく改善の方向

家庭学習の定着が毎年課題であるが、具体的な学習時間を調査し、全く学習していない生徒がどの位いるか把握することも大切だと考える。また、部活動の活性化も休部する部活動が多くなる中、なかなか活性化することは難しいと思われるため、目標設定を変更していきたい。

地域との連携において、川俣町広報誌「かわまた」や「川俣町ものづくりエイト」に協力することで、地域協働に今後も繋げていきたい。なお、コロナ禍の影響で、今年度はボランティア活動ができなかったが、コロナ禍が治まれば、次年度は多くの生徒に参加してもらえ体制をつくっていきたい。

III 広報の概要

1 目的や意図

「学校経営・運営ビジョン」を生徒や保護者に配付して広報に努め、日頃の学校での取り組みについて理解を得るようにする。さらに、努力目標の反省などをまとめ、学校評議員に意見を聞くなどして、学校の取り組みの改善に努める。また、学校からの様々な情報発信をとおして、保護者や地域にさらに学校に関心を持ってもらえるように努める。

2 実施計画及び実施状況

P T A役員会等においての説明、ホームページにおいて、学校評価に関する事柄を掲載していく。

3 配布対象、配布時期、配布方法等

- ・ 配布対象は、生徒や保護者、学校評議員
- ・ 配布時期「学校経営・運営ビジョン」は年度当初、アンケート集計結果は年度末
- ・ 配布方法は、紙媒体による配布とWeb利用

4 実施してみたの反省点

ホームページの更新を一斉メールで生徒、保護者に周知し、アクセス数の増加に繋がった。また、川俣町広報誌「かわまた」を使い、積極的に学校の取り組みなどを掲載した。広報誌による取り組みは、5年目となり、より多くの世代の方々に見て頂けるようになった。今後も、川俣町と連携しながら広報活動のより充実を図り、さらなる情報発信に努めたい。

IV 次年度に向けて

- 1 評価結果の特徴、自己評価実践の成果等
学校経営・運営ビジョンをもとに設定した目標は概ね達成できた。
自己評価の実践により課題等が明確になった。数値的目標を持てるように次年度検討して行きたい。
- 2 自己評価全体の次年度の取組みについて
コミュニティー・スクールの導入に伴い、目標の見直しを行う。
- 3 次年度へ向けての課題、改善点、重点努力事項、展望など
 - ・本校生徒の実態と多様な進路希望の実現を図るために、生徒一人ひとりに応じたきめ細かな指導が求められる。計画的なキャリア教育を行い、勤労観や職業観を育成するためインターンシップを導入するとともに、毎日の授業の充実と生徒の基礎学力の向上に取り組んでいく必要がある。
 - ・健康と安全教育の徹底のために、教育相談の充実や健康教育、交通安全教育に取り組む。基本的な生活習慣、生活態度の定着を継続して取り組んで行く。
 - ・学校の情報発信の工夫に努め、ボランティア活動や地域の行事参加等、地域との連携を次年度も継続していく。
 - ・次年度はコミュニティー・スクールの導入年度でもあることから、生徒、保護者、地域の方々に情報を発信しながら、基盤づくりを行う。
- 4 終わりに
自己評価については、学校評議員の方々から協力を得ながら、生徒や保護者の評価を取り入れ、実施することにより、「学校経営・運営ビジョン」の検証が多面的に行えた。この結果をもとに来年度の「学校経営・運営ビジョン」の策定を行い、全職員が協働して学校づくりを進めて行きたい。
なお、コロナ禍の影響が続けば、対外的な行事の持ち方も再度検討が必要になってくるため、行事の見直しも行って行きたい。